令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立芳水小学校

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった２年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	81.0	87.0	85.2	81.1	知識・技能	85.6	89.4	89.1	86.9
活用	56.3	68.5	65.9	58.6	思考・判断・表現	63.9	74.9	71.7	64.5

※目標値をすべての項目で３ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 言葉の学習問題では、共通、相違、事柄の順序についての理解が不十分である。
② 聞いたことを基に話をする問題では、大切なことを落とさないように聞くことに課題がある。

３．課題の原因として考えられること

① 身近な物の代名詞や語句などは、聞いたことはあるが、その意味を理解ができていない。また。問題文の意味を理解できていないことが原因として考えられる。

② 聞いた情報を理解したり、情報を基に想像したりすることができない。情報から重要な語句（キーワード）を選択できない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① ある視点を設けたとき、ひとまとまりにできるものがあることや反対の意味をもつ言葉があることなどを、言葉の単元や漢字の学習の時に取り上げ、言葉についての見方や考え方を広めたり、深めたりしていく。
② 国語の説明文や生活科のおもちゃ作りの学習で、順序を捉えたり、文章と写真を対応させたりしながら読ませ、大事な言葉や文を見付けさせる活動を行う。また、朝会の話や日直のスピーチを聞いた後など、要点を考えさせる。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった２年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	81.0	87.0	85.2	81.1	知識・技能	85.6	89.4	89.1	86.9
活用	56.3	68.5	65.9	58.6	思考・判断・表現	63.9	74.9	71.7	64.5

※目標値をすべての項目で３ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２.具体的な課題

① 集合数の問題では、「前から何番目」と「何個」の意味を混同している。
② 色板を使ってできている形の板の枚数を数える問題で、三角形の大きさの違いが捉えられていないため、正しく数を数えることができない。
③ ひき算の問題では、文章問題(求差の場面)を解くための減法の立式ができていない。

３.課題の原因として考えられること

① 「何番目」と「何個」の言葉の意味を理解できていない。
② 色板の元の大きさを理解していないため、数を正確に数えることができていない。
③ 数の大小を確認せず、絵の順番通りに立式してしまっている。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 日常的に前から何番目や、何個といった指示を使って指導する。
② 実際に具体物を使い、操作しながら取り組ませることで、図形に親しみ理解を深めさせる。また、書き込みをし、正確に数えるやり方を指導していく。
③ 文章問題の中で立式する際にキーワードになる言葉をアンダーラインや○でチェックをするよう指導する。ひき算では、問題文に出てきた順番に立式させるのではなく、数が大きい方に○をつけさせる。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった３年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	79.0	85.9	85.3	81.0	知識・技能	77.8	84.2	84.5	80.0
活用	56.9	65.3	64.0	57.8	思考・判断・表現	67.1	75.2	73.7	68.4

※目標値をすべての項目で５ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 高正答率の児童と平均点に満たない児童の二極化が見られる。平均値としては、目標値、区平均、全国平均を超えているが上位層の児童の得点で全体が引き上げられている。

② 説明文の学習で事柄の順序を考えながら文章全体の内容の大体を捉えることに課題が見られた。

③ 文章を書く問題では、伝えたいことを明確に、内容のまとまりが分かるように文章を書くことができてない。

３．課題の原因として考えられること

① 児童の興味関心を引き出すような指導の工夫や、児童の実態に合った授業改善が十分ではない。

② 文章全体を見通して読む力、話題やキーワードに着目して読む力が十分ではない。説明文の構成を意識して読む経験が不足している。

③ 「はじめ（頑張りたいこと）→理由→まとめ」という文章構成を意識して書く経験が不足している。また、理由を具体的に説明する力が十分ではない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 一人一人の苦手を把握し、個々の能力に合わせた指導を充実させる。漢字が苦手な児童は、一緒に目標を立てて練習に取り組めるようにしたり、問題の読解力に課題がある場合は一緒に問題文を読む経験を増やしたりして、苦手意識を減らして学習内容を確実に身に付けられるようにする。児童にそれぞれに合わせた手だてを用意し、個人が目標をもって取り組めるような授業改善を行う。

② 何について書かれている文章かを考えながら読む習慣をつける。文章をはじめ、中、終わりに分け、どこで何を説明しているかを整理する活動を行い、説明文の構成を可視化する。題名や繰り返し出てくる言葉に線を引くなどキーワードに線を引く活動を取り入れる。

③ 文章校正を可視化して指導する。「頑張りたいこと→理由→これから」の三部構成をワークシートに整理してから文章を書く活動を取り入れる。「なぜなら～だからです」「例えば～」などの言葉を使った理由を書く学習を繰り返す。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった３年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	78.0	84.0	81.4	77.8	知識・技能	77.2	83.6	81.0	77.4
活用	63.3	71.5	67.5	62.8	思考・判断・表現	66.7	73.1	69.1	64.6

※目標値をすべての項目で６ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 加法の結合法則を用いた式の計算の順序を問う問題で、計算の順序が課題である。
② 方眼に正方形を描くことを問う問題で、正方形の概念理解が課題である。

３．課題の原因として考えられること

① 結合法則のきまりを理解していないため、括弧の中を先に計算せず、左から順に計算してしまっている。
② 正方形の概念や方眼の見方、作図の手順を正しく理解していない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 計算のきまりを確認するとともに、「数のまとまりを見る力」を育てる。「先に計算するところを変えても答えは同じ」、「１０になる組を先に計算すると簡単」という実感をもたせるようにする。
② 正方形の概念を確認するとともに、方眼の見方や作図の手順を指導する。正方形の概念「４つの辺の長さが同じ」「４つの角が直角」を確認するとともに、方眼を使って作図する経験を繰り返し指導していく。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	74.1	79.7	77.7	74.6	知識・技能	74.5	83.0	79.5	76.6
活用	58.8	70.4	67.3	61.2	思考・判断・表現	65.7	72.5	71.0	66.1

※目標値をすべての項目で上回っている。
全国平均、区平均を全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 漢字を書くことに課題が見られた。具体的には、第３学年配当の漢字の習得が不十分で、書けない児童が多かった。

３．課題の原因として考えられること

① 漢字を学習した後の反復練習が十分ではなく、学習直後の一時的な記憶にとどまり、長期的な定着につながっていない。
② ３年生までに学習した漢字を継続的に復習する機会が少なく、既習漢字を想起して書く経験が不足している。
③ 漢字を「覚える」ことが中心となり、実際の文章や作文の中で漢字を使う機会が十分ではない。
④ 漢字の読み方や意味と結び付けて覚えることが十分でなく、文脈の中で適切な漢字を選んで書くことに課題がある。
⑤ 児童によって漢字の習得状況に差があり、一律の学習だけでは個々のつまずきに十分対応できていない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① モジュール学習で、新出漢字だけでなく、既習の漢字も反復練習させるようにする。
② 日頃から、学習した漢字を用いて、文章を書くように指導する。
③ 既習の漢字を常時教室に掲示するようにする。
④ 宿題（漢字）を家庭で行う習慣がついていない児童には、励ましたり保護者と連携を図ったりして宿題ができるように促していく。
⑤ 漢字の読み方や意味、使い方を確認し、単に書いて覚えるだけでなく、言葉や文章の中で漢字を理解できるよう指導する。
⑥ 漢字テスト等の結果から児童一人一人のつまずきを把握し、習得が不十分な漢字については個別に繰り返し指導する。
⑦ 漢字を間違えた場合には、正しい字を書き直すだけでなく、間違えた原因を確認し、再度練習する機会を設ける。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

社会

１．社会の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	70.0	76.4	74.6	71.5	知識・技能	70.6	77.4	75.3	72.4
活用	48.6	58.6	54.7	49.9	思考・判断・表現	55.5	63.6	60.9	56.3

※目標値をすべての項目で上回っている。

２．具体的な課題

① 四方位の理解に課題が見られた。
地図上で基準となる方位を確認し、ある地点から見た別の地点の位置を東西南北で捉える問題において、正答率が低かった。特に、地図の向きと方位を対応させて位置関係を判断することに課題が見られた。

② 資料を読み取ることに課題が見られた。
グラフ・表・地図・写真などの資料について、数値や項目を個別に読み取るだけでなく、複数の情報を比較したり、変化や傾向を捉えたりして、資料から分かることを考える問題に課題が見られた。

３．課題の原因として考えられること

① 方位に関する知識が不足している。
四方位については「東西南北」という言葉や位置を覚える学習にとどまり、実際の地図や身近な場所と結び付けて方位を使う経験が十分ではなかったことが考えられる。また、地図を見る際に方位記号を確認してから位置関係を捉える習慣が十分に身に付いていなかったと考えられる。

② 資料を読み取る活動が不足している。
資料の読み取りについては、資料を提示して内容を確認する活動は行っていたものの、「どこに着目するのか」「何と何を比較するのか」「そこから何が分かるのか」という読み取りの視点を明確にした指導が十分ではなかったことが考えられる。また、教師が資料から読み取れることを説明する場面が多く、児童自身が資料を根拠にして考えたり、自分の言葉で説明したりする機会が不足していたと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 授業中に地図帳などを用いて、方位を確認しながら場所を確認する時間を設ける。
② 「調べ考える」という社会科の学習の進め方を校内で確認する。例えば、「資料から分かった事は何ですか？」、「この資料からどんな事が考えられますか？」などの発問し、自分の考えを言語化させる活動を取り入れる。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	75.0	86.0	81.3	75.8	知識・技能	75.5	86.6	81.8	76.3
活用	61.4	75.6	69.1	60.4	思考・判断・表現	60.0	73.9	67.5	58.8

※目標値、区平均、全国平均より、基礎・活用ともに大幅に上回っている。観点別正答率も同様である。

２．具体的な課題

① 基礎・活用・観点別の正答率全てにおいて、校内平均が目標値・区平均・全国平均を上回っている。しかし、円と球・三角形の問題は正答率が４割を下回っていたり、わり算の余りの処理の仕方を記述して説明する問題は正答率が７割を下回っていたりと、定着が弱い領域があった。また、解き方を説明する問題に課題が見えた。

② 後半の問題や問題場面が文章で細かく書かれている問題ほど無解答の割合が高くなる傾向にある。

３．課題の原因として考えられること

① 直径と半径について理解していても、問題を解決する場面になると、半径が直径の半分になるという関係性を活用することができない。

② 解決できない問題を解くのに時間がかかり、全体の問題に目を通すのが難しい。計算問題のように一問一答形式のものは答えられるが、場面を理解するのに時間がかかるものについては考えるのを諦めてしまったり、数と数の関係性を正しく理解できなかったりする。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 図形や測定、データの活用領域の学習においても、具体物を操作したり、具体的な生活場面に即した問題を扱ったりすることで、基礎・基本の力を活用できるようにしていく。

② 習熟度の高い児童においては、解き方や考え方を言葉や式、図等を用いて説明する時間を多く確保したり、互いの説明を見合ったり聞き合ったりすることで自身の説明をブラッシュアップさせ、自分の考え方を言語化する力を伸ばす。習熟度が低い児童においては、問題場面の把握を丁寧に行ったり、問題場面を数直線や線分図等に表したり、簡単な数値に置き換えて意味理解を強化したりすることで、定着度を高める。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

理科

１．理科の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	64.5	72.8	69.6	66.4	知識・技能	61.2	68.3	65.9	62.6
活用	53.8	54.4	58.0	55.3	思考・判断・表現	61.4	66.6	66.4	63.6

※目標値、区平均、全国平均より、基礎、観点別正答率は上回っている。活用については目標値には達しているが、区平均、全国平均を下回った。

２．具体的な課題

① 「虫眼鏡の使い方」、「集めた光の範囲と温度の関係を理解して説明する」問題の正答率が、目標値を 10%以上下回っている。

② 知識や理解していることをもとに、推測して回答する活用の問題についての正答率が、基礎の問題の正答率に比べて低い。

３．課題の原因として考えられること

① 虫眼鏡の扱い方の理解が不十分である。集めた光の範囲が狭くなると温度が高くなり、範囲が広くなると温度が低くなることを理解できていない児童が多い。また、理解はできているが、それを言葉で説明することができていない児童も多いことが考えられる。

② 基礎的・基本的な知識は習得できているが、なぜそのような結果になるのかといった要因などを理解していないため、活用できる段階にいたっていない児童がいると考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 実験器具を扱う際には、使い方の手順やその意味について指導する。また、一度使用したことがある器具でも再度確認をする。

② 単元のまとめでは、学習事項について児童が自分の言葉でまとめる活動を取り入れたり、学習した内容を全体で確認したりする機会を設ける。

③ 単元の最後に、学習した知識・技能を活用するような演習問題を提示し、全体で確認する機会を設ける。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	69.4	79.7	75.2	70.3	知識・技能	72.7	81.9	77.6	73.3
活用	55.6	73.0	65.7	56.9	思考・判断・表現	59.7	74.5	68.3	60.9

※校内正答率が、全ての「領域別正答率」で目標値を上回っている。

２．具体的な課題

① 下学年の配当漢字の「読み」の定着が全国平均よりやや下回っていた。
② 「調べたことをもとに文章を書く」や「文章を書く」など、自分の考えや事例に基づいて文章を書くことが苦手な児童が多い。

３．課題の原因として考えられること

① 漢字テストのための学習はできているが、習った漢字を日常的に活用しようとする児童が少ない。
② 自分の考えとそれを支える事例との関係に気付くことができず、問いに正対する文章を書くことができていない。また、文章を書く問題に苦手意識があるため、始めから諦めて書こうとしない児童が一定数いる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 普段の学習の中で、文章を書くときに既習の漢字を正しく使えるように指導する。
② 文章を書く際に構成メモを作成したり、推敲したりする経験を増やし、文章構成を考えて書く力や指定された長さの文章が書けるよう指導する。また、一文字も書けていない児童に対しては、問題文を正しく読み取る力を高め、短い文章を書くことから初めて苦手意識を払拭する。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

社会

１．社会の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	68.1	78.6	75.3	69.7	知識・技能	64.3	73.9	71.6	65.4
活用	55.7	68.5	63.3	58.0	思考・判断・表現	65.0	78.1	72.5	67.8

※目標値をすべての項目で9.5以上上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 「くらしをささえる水」において、浄水場の仕組みや管理する自治体の取組など、水の供給に関する仕事についての知識の定着が目標値をやや下回っている。
② 資料から読み取った情報を整理して、分析する力が高められていない。

３．課題の原因として考えられること

① 資料から分かる情報を正確に読み取る力が十分に育っておらず、自分の考えをもつまでにいたっていないことが考えられる。
② 複数の資料を関連付けながら読み取る経験値が不足していることが考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 一つ一つの資料を、見る視点やポイントを明確に示して学習を進めるように学習設定を行う。
② 自分の考えをもち、自分の力でまとめる時間を十分に確保する。
③ 少人数で学び合う場の設定を行い、社会的事象について多面的に捉える機会を作る。
④ 授業で扱う資料を精選した上で、資料を関連付けて取り扱う機会を提供するようにする。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	64.5	76.0	70.9	64.4	知識・技能	67.0	77.1	72.6	67.0
活用	57.5	68.9	62.9	56.0	思考・判断・表現	48.8	64.0	56.1	46.8

※目標値をすべての項目で 10 ポイント以上上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 平行四辺形の作図問題で目標値を大きく下回っており、作図が苦手な児童が多い。
② 教室にある机のおよその面積を推測する問題での正答率が 25.6%と低く、面積の広さと日常経験が十分に結びついていない児童が多い。
③ 複数の資料を読み取って説明する問題での正答率が 37.2%と低く、複数の資料から分かったことを説明できない児童が多い。

３．課題の原因として考えられること

① 作図の方法を十分に理解していないし、技能の習得も十分ではない。
② 面積の求め方や公式は理解できているが、正方形や長方形のように求めやすい図形でないものの面積を推測する方法を理解できていない。
③ 二次元表の読み方は多くの児童が理解できており、それぞれの表を結び付けて読み取ることができている。しかし、読み取ったことを説明する力が育っていないことが考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 図形の性質を理解させるだけでなく、作図する機会を多く設けたり、作図したものをお互いに交流したりすることで、児童が作図のポイントに気付、正確に作図できるようにする。
② 公式に頼るのではなく、具体的な事象からきまりを見付けることで、なぜそのような公式になるのかを児童が実感できるようにする。
③ 面積の広さが日常経験と十分に結び付けられるように、身の回りのものを面積で求める活動を多く取り入れるようにする。
④ 資料を読み取り、分かったことを文章で表したり、交流したりする機会を設けることで、児童が説明する力を身に付けられるようにする。
⑤ 一問一答ではなく、根拠をきちんと明確にして説明する力を身に付ける必要がある。そのために、授業の中で考え方や理由を他者に伝える時間を確保する。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

理科

１．理科の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	65.5	74.4	68.7	67.7	知識・技能	61.5	69.4	63.4	63.0
活用	41.1	49.2	44.0	42.0	思考・判断・表現	52.9	62.6	57.7	55.1

※目標値をすべての項目で２ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 「自然の中の水」について、空気中の水蒸気が水になることを表す「結露」という言葉の定着に課題がある。
② 「物の体積と温度」で、温度による空気の体積の変化を説明する問題での正答率が 39.7%と低く、説明する力が身に付いていないことが考えられる。

３．課題の原因として考えられること

① 学習時に、用語とその意味をきちんとおさえておらず、児童の理解が不十分である。
② 学習時は理解できているが、その後の復習が不十分で定着していない。
③ 知識としてどのような理科の事象になるかを理解できていても、自分の言葉で説明することにつまずきがある児童が多いと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 体験や実験を行う学習では、理科の用語と事象をきちんと結び付けて指導していく。
② 適宜、繰り返し復習を行う。
③ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめるなど、言葉で説明できる力を身に付けさせていく。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	66.1	80.9	75.5	66.3	知識・技能	65.5	77.9	73.3	63.9
活用	50.0	70.3	61.8	50.5	思考・判断・表現	58.0	77.4	69.8	59.6

※国語に関しては目標値を全ての項目で上回っている。しかし、項目別に見ると、漢字や敬語の学習に課題が見られる。また、自分の考えを記述する形式に課題がある。

２．具体的な課題

① 学年配当漢字を適切に読んだり、書いたりすることや由来についての知識・技能において、定着の個人差が大きくなっていることや、正答率の低さが課題として挙げられる。

② 自分の考えとその理由を明確にして書くことや、条件に応じて資料から読み取った事実を書くことに課題が見られる。

３．課題の原因として考えられること

① 漢字を読み書きについては、音声言語に触れる機会が増える一方で、活字に触れる機会が減少していることや、書く機会が減少していることが原因と考えられる。

② iPad の普及に伴って文字変換がすぐにできること、予測変換機能を使用することで、設問の意図を理解した上で文章を書くことや、自分の考えを整理して書く機会が減少して、力が伸びていないことが原因と考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 既習漢字を復習する機会を意図的に設定したり、文章を書く際に漢字を使うことで読みやすくなることに気付かせたりすることで、正しく漢字を使いこなすよさに気付けるようにする。

② iPad と手書きの使い分けを改めて考える機会を設ける。課題に応じた手段を選ぶように授業作りを行う。また、目的を明確にしながら適切な言葉を用いて文章を書く活動を取り入れる。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

社会

１．社会の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	67.6	77.8	75.3	68.8	知識・技能	68.4	77.7	76.1	69.5
活用	62.8	74.5	71.3	65.1	思考・判断・表現	62.9	75.4	71.2	65.2

※社会科に関して、【基礎・活用】ともに目標値を上回っている。観点別にみても、【知識・技能】【思考・判断・表現】ともに目標値を上回っているが、【知識・技能】は区の平均とあまり変わらない数値結果である。領域別で見ると、正答率が高い領域とそうでないものとの差が大きい。

２．具体的な課題

① 「日本の水産業」における日本の主な漁港と水揚げ量についての理解が目標値より 9.1 ポイント下回っている。
② 「情報を生かした産業」の様々なメディアについての理解が目標値より 0.4 ポイント下回っている。
③ 「日本の工業生産」の日本の貿易についての理解の正答率が 47.4%で、半数が誤答である。

３．課題の原因として考えられること

① 基礎的な知識を活用した問題への解答が不十分である。問題の内容(領域)によっては定着が見られるので、学習内容ごとの定着に差が見られたと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 第５学年で習った各単元での学習内容を、現在指導している歴史的分野の学習と絡めながら復習する。
② 歴史的分野の学習を通して、過去から現在にいたるまでの過程に目を向けるだけでなく、物事を様々な角度から見たり、グループで意見交換をして自分の考えをまとめたり、自分の意見を説明する機会を増やしたりしていく。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	67.3	83.5	78.2	69.5	知識・技能	69.2	85.1	79.7	70.4
活用	53.8	73.1	66.2	53.2	思考・判断・表現	54.1	73.2	67.0	56.1

※算数においては目標値を全ての項目で上回っている。また、全ての項目で区平均を上回っており、習熟度別少人数クラス算数において、「自分の考えをもつ」ための自力解決の時間を確保し、考えを説明したり意見を聞いて新たな解き方に気付いたりすることによって、自分の考えを整理して学習を理解することにつながったと考える。

２．具体的な課題

① 基礎・活用、観点別ともに、すべての項目で校内平均が目標値・区平均・全国平均を超えた。一方で、正答率が高い児童と、全体的な理解が不足している児童の差は大きく、二極化の傾向も見られる。

② 正答率が高い児童でも、考えを図や式を用いて順序立てて説明する力が不足している。

３．課題の原因として考えられること

① 課題がある児童に関して、知識や技能などの基礎的な理解が身に付いておらず、問題を最後までよく読み、何が求められているかを理解する力や集中力の持続性が原因と考えられる。

② 「なぜそうなるのか」「どうしてその式や答えになるのか」という根拠を明らかにせず、答えを求めることで満足していることが考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 一人一人の課題をしっかりと見極め、単元や学習内容によって個別の課題にあった教材や教具を準備するとともに、習熟度別学習を生かし、さらに個々の課題に沿った学習を工夫する。

② 「根拠」を言葉にする習慣を付けるために、理由と結論をセットにしてノートに記入したり、発表したりする。また、多様な考えを比較・検討する機会を設定して、「共通点や相違点」を全体で吟味する授業作りを行う。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

理科

１．理科の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	61.8	70.2	66.4	58.2	知識・技能	59.7	69.0	64.8	62.0
活用	45.5	53.3	50.7	46.5	思考・判断・表現	51.3	57.8	55.7	52.4

※基礎・活用の定着において、本校の値は目標値、区、全国ともに上回っている。観点別正答率では本校の値は目標値、区、全国ともに上回っている。前年度の校内の正答率と比較すると、活用において下回ってはいるが、全国平均、区平均ともに大きく下がっているので問題はないと考える。

２．具体的な課題

① 「天気と雨量の関係」についての理解が目標値の 50.0 に対して、49.6 と到達していない。
② 「メダカの飼い方や卵の様子」についての理解が目標値の 90.0 に対して、84.4 と到達していない。
③ 「流れる水のはたらき」における、実験の目的や結果から使用した物を予想する設問にて、目標値の 65.0 に対して 60.0 と到達していない。
④ 「電磁石の極」についての理解が目標値の 45.0 に対して 44.4 と到達していない。

３．課題の原因として考えられること

① 他地域の天気と雨量の様子を想像することが難しかった。
② 実体験としてメダカをしっかりと観察する時間について、児童によって個人差があった。
③ 規模の大きい実験を要する単元なので、児童一人一人が理解を深めることができなかった。
④ 電流の向きで電磁石の極の方向が入れ替わるということを、実験の際に深められていなかった。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 社会の知識などを活用し、教科横断的に単元の指導を行う。
② 各クラスでメダカを飼育する環境と設備を整え、観察する時間を設定してメダカを観察する。
③ グループ単位で実験が行えるように場を設定し、児童一人一人の考えが実験に反映されるようにする。実験の条件を変えて、試行錯誤する中で学びを深めていく。
④ 実験の目的と、結果を得るために必要な物や手順を児童と共にしっかりと考える。

※②③④に関しては、観察や実験の不足が起因していると考える。できるかぎり観察や実験を取り入れていき、実験の方法から児童に考えさせ、児童主体に授業展開をしていく。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

英語

１．英語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	79.7	88.7	87.8	82.7	知識・技能	79.4	88.7	87.5	82.3
活用	72.5	77.7	78.8	74.5	思考・判断・表現	72.7	81.3	82.3	77.9

※校内正答率が、全ての領域別・観点別正答率で目標値を上回っている。

２．具体的な課題

① 目標値に対して、資料と英文を関連付けて、適切な語句を補って英文を完成させる問題の正答率がほかの問題に比べて低い。

３．課題の原因として考えられること

① 資料から必要な情報を読み取り、場面に応じて適切な英語表現を判断して書く力が十分に身に付いていない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① イラストや表、地図などの資料を活用した言語活動を充実させ、資料と英文を関連付けて考えながら、場面に応じた適切な表現で英文を完成させる練習を繰り返し行う。